

## 2020年7月NHK関東甲信越地方放送番組審議会

7月のNHK関東甲信越地方放送番組審議会は、17日(金)、NHK放送センターにおいて、9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、首都圏情報 ネットドリ！「どう楽しむ？コロナ時代の観光」について説明があり、放送番組一般も含めて活発に意見の交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、8月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

### (出席委員)

委員長	原 拓男 (千曲錦酒造(株)相談役)
副委員長	奥山千鶴子 (NPO法人びーのびーの理事長)
委員	尾形 玲子 (養蜂家、ひふみ養蜂園(株)代表取締役)
	小野 訓啓 ((株)めぶきフィナンシャルグループ取締役)
	斉藤とも子 (俳優/社会福祉士・介護福祉士)
	杉山 弘子 (アサヤ食品(株)代表取締役社長)
	杉山 正司 (元埼玉県立文書館館長)
	仁衡 琢磨 (ペンギンシステム(株)代表取締役社長)
	宮田麻一美 (万座温泉日進館女将)

### (主な発言)

<首都圏情報 ネットドリ！「どう楽しむ？ コロナ時代の観光」

(総合 6月12日(金)放送<関東甲信越地方向け>) について>

- 観光業が厳しい状況に置かれていることがよく分かった。困難に直面しながらも工夫して乗り越えようとする各企業の努力はすばらしく、勇気をもらった。“withコロナ時代”と言われるように、新型コロナウイルスと共存しながらどう楽しむか、という発想はとてもよいと思う。ゲストのリゾート会社社長の星野佳路さんが提唱していた、近隣地域の魅力を改めて見直す「マイクロツーリズム」という考え方は勉強になった。テーマにふさわしいゲストだったと思う。それぞれの企業の工夫やウイルス対策などの取り組みは理解できたが、その企業努力の結果として客足が戻ったかどうかについても伝えてほしかった。観光業に携わる人々にとっても、

示唆に富んだ有益な番組だったと思う。

(NHK側)

番組を放送した時点ではそれぞれの企業が取り組みを始めたばかりで結果まで伝えることができなかったが、このテーマは継続して取材していきたい。

- 「コロナ時代」というタイトルが気になった。コロナウイルスは古くから存在しており、コロナということばは商品名などにも使われているので「COVID-19」や「新型コロナウイルス」など、なるべく正確な名称を使用してほしい。公共メディアのNHKが新たな事象をどう呼称するかは重要なので、十分に注意してほしい。キャスターの松田利仁亜アナウンサーの発音は聞きやすく自然体で好感を持ったが、ゲストの女性は原稿を読んでいると感じる場面が多く、気になった。また、松田アナウンサーはゲストを愛称で呼んでいたが、視聴者が戸惑わないように名前と呼んでほしい。隅田川の水上市バス話題では、以前屋形船で新型コロナウイルスの集団感染が発生したこともあるので、オープンエアで飲酒も行われていないことにしっかり触れるとなおよかったと思う。

(NHK側)

指摘については、今後の番組制作に活かしていきたい。水上バスが密な状態にならないことについては、番組後半に紹介した。

- 新型コロナウイルスの感染拡大により観光地が打撃を受けていることは知っていたが、外国人旅行者が見込めず厳しい状況になっていることがよく分かった。業態が異なる複数の事業者を取材しており、内容にも説得力があったと思う。中華料理店がドライブスルーなどで新たな顧客を生み出そうとしている取り組みのなかで紹介された、「何かをすれば何かが変わる」ということばは、観光業復活に向けたキーワードだと感じた。地域の魅力を再発見し、「マイクロツーリズム」という考え方を定着させ、新しい顧客やリピーターを獲得していくことが今後は重要になると感じた。経済の活性化について、「Go Toトラベルキャンペーン」なども計画されているが、いわゆる「新しい生活様式」を意識した身近な観光について考える契機となった、良質な番組だったと思う。
- 多くの人々がいま最も知りたい情報を伝えてくれるタイムリーな番組だった。首都圏の有名な観光地が新型コロナウイルスの感染拡大によって実際にどの様な影

響を受けたのかがよく分かる、とてもよい番組だったと思う。浅草や横浜中華街などの具体的な事例が紹介されたあとに星野さんの鋭い現状分析があり、新しい取り組みとして横浜のホテルやオープンエアの乗り物での観光を紹介するという構成が効果的だった。星野さんの「新しいものに出会いたいという消費者の気持ちを満たすサービスを考えたい」という前向きなことばが印象的で好感を持った。首都圏だけではなく、今後は地方の観光についても取り上げてほしい。

- 浅草や横浜中華街の現状紹介では、事業者の危機感や戦略転換が迫られている実態がリアルに伝わってきた。中華料理店がデリバリーやドライブスルーで新たな顧客を生み出そうとする様子など、事業者の努力がしっかり伝わってきた。ただ、カメラワークが不安定に感じ、番組に集中できない部分があった。ゲストに星野さんを起用したのは適任でよかった。「マイクロツーリズム」は、コンセプトが時代に合っていて説得力があった。一方で、観光収入についてデータを用いて説明していたが、出典が小さく読みづらかったので画面の作りを工夫してほしい。また、2019年の旅行消費額について円グラフで示していたが、やや分かりにくかったと思う。ゲストの高橋みなみさんの「私たちは元通りを求めてしまいがちだが、変化に順応して楽しんでいきたい」という趣旨の発言は、番組全体のまとめにもなっており、共感した。
- 新型コロナウイルスによって観光業が大変な状況にあることがよく分かった。人力車の車夫はマスクやフェイスシールドを着けて客を案内しているとのことだが、暑さ対策など苦労している点について感想を聞きたかった。中華料理店の店員が言っていた「何かをすれば何かが変わるかもしれない」ということばが印象に残った。VTRに重なるように、松田アナウンサーとゲストの表情を画面の左右に配置していたが、雑多な印象で見づらかった。視聴者が見やすい画面作りを心掛けてほしい。テーマの設定など、全体的にはとてもよい番組だったと思う。

(NHK側)

グラフの表現についての意見は今後に活かしていきたい。また、ゲストがリモート出演だったために演出が難しい部分もあったが、視聴者が違和感を持つことのないよう、今後も心掛けていきたい。

- 困窮する観光業にエールを送るような番組だったと思う。星野さんをゲストに迎え、さまざまな提言を引き出していたのがすばらしかった。星野さんが「国内の四季折々のよさを見直し、野外型観光などでお客さまにリピートしていただく」とい

う趣旨の発言をしていたが、とても参考になる考え方だと感じた。このようなリピーターを生み出す秘訣は、新しい観光の指針になるものだと思う。一方で、観光する側と受け入れる側が取り組むべき新型コロナウイルス対策について、もっと詳しく扱ってほしかった。また、浅草や横浜中華街などは有名な観光地だが、さらに厳しい現実に直面している地方の観光地も紹介してほしかった。ゲストの女性はとても明るくて好感を持ったが、コメントが自分のことばではなく原稿を読んでいる感じがして、少し気になった。

(NHK側)

新型コロナウイルスの感染拡大で観光業に影響が出ていることを多くの視聴者に伝えるため、今回は誰もが知っている有名な観光地を取り上げたが、今後は地域の観光地の事例なども取り上げていきたい。

- 横浜中華街の中華料理店が、創業以来初めてチラシを作るなどの営業活動をしたという紹介があり、有名な観光地ですら危機的な状況にあることが伝わってきた。外国人旅行者数と日本人旅行者数の割合比較など、データを効果的に用いて現状を分かりやすく解説していたと思う。ただ、外国人旅行者と日本人旅行者がもたらす経済効果の違いなどの説明があるとさらによかったと思う。星野さんが観光業の今後の方向性を示していたが、説得力があった。地域の魅力を再発見するというキーワードによって、誰もが今回のテーマを身近なこととして関心を持ったと思う。一方で、「どう楽しむ？」という番組タイトルについては、このタイミングで楽しむというワードはふさわしいのだろうか、やや疑問に思った。

(NHK側)

さまざまなデータの中から、今回は国内消費額の消費区分について紹介した。指摘については参考にしたい。

- 場面が変わるたびに「ネタドリ！」という明るい音声のつなぎ映像が入っていたが、今回の番組は新型コロナウイルスで深刻な影響を受けた観光業の人たち取材した内容であるため、やや不適切だと感じた。感染防止に万全の対策をしても客足が戻らないという人力車の紹介からは、現実の厳しさがひしひしと伝わってきた。横浜の中華街の新たな楽しみ方や、密な状態を避けた水上バスなど、番組のタイトルに合った内容を分かりやすい解説で伝えていたと思う。星野さんの「マイクロツーリズム」の考え方など、興味深い内容が盛り込まれており、よい番組だった。一方で、キャスターがゲストを愛称で呼んでいたのは違和感があり、番組の終わり

がやや駆け足に感じたのは残念だった。

(NHK側)

つなぎ映像については数パターン用意しており、番組の内容によって使い分けている。今回は、「観光を安全にどう楽しむのか」ということを伝えるため、少し明るい印象のつなぎ映像を使用した。観光に対して後ろ向きの印象を与えないよう配慮した。

<放送番組一般について>

- 6月28日(日)のNHKスペシャル「戦国～激動の世界と日本～(1)秘められた征服計画 織田信長×宣教師」と7月5日(日)の「戦国～激動の世界と日本～(2)ジャパン・シルバーを獲得せよ 徳川家康×オランダ」を見た。日本史を考えるうえでは国内に残されている資料だけでは限界があるが、海外に残されていた資料をもとに、「世界の中の日本」という視点で日本の戦国時代の史実を見つめなおしており、興味深い番組だった。科学的な分析や実験も交えながら斬新な切り口で構成していてすばらしかった。特に、大砲をハイスピードカメラで撮影した映像は迫力があってよかった。
- 7月4日(土)のNHKスペシャル「タモリ×山中伸弥“人体VSウイルス”～驚異の免疫ネットワーク～」(総合 後7:45～8:58)を見た。ウイルスと人体の免疫の関係がよく分かった。CG映像もすばらしく、技術の高さに感心した。質の高い番組で、医療の発展にも貢献しうる内容だと感じた。新型コロナウイルスだけではなく、うつ病も大きな社会問題になっており、苦しんでいる患者や家族が数多くいる。うつ病についても、NHKスペシャルで取り上げてほしい。

(NHK側)

「人体VSウイルス」は多くの視聴者に見ていただいた。  
NHKスペシャルでは今後もさまざまなテーマを取り上げていきたい。

- 7月3日(金)の「NHKニュース おはよう日本」を見た。埼玉県の銭湯の話題の中で、店主が好きな歌のことを「野球チームの球団歌」と紹介していたが、回りとどい表現で、違和感を覚えた。

- 7月11日(土)のブラタモリ「葉山～“憧れの葉山”は どうできた?～」を見た。神奈川県三浦半島の葉山町がどのように形成されたのかを探っていた。タモリさんの博識ぶりには毎回感心している。日本有数のヨットの町である葉山だが、入り組んだ地形を形作る葉山層群がヨットに適した複雑な風を生み出すことや、皇室の御用邸が建てられた理由などについて分かりやすく解説した興味深い番組だった。
- 7月13日(月)の【ストーリーズ】事件の涙「そこに あなたがいない～京都アニメーション放火事件～」を見た。事件で娘や息子が犠牲になった家族を取材しており、遺族の痛みや悲しみが深く伝わってきた。遺族に寄り添った番組で、制作者の姿勢にも感動した。
- 7月15日(水)のクローズアップ現代+「“森友” 裁判始まる 自殺した職員の妻と国 佐川氏は? 焦点は」を見た。森友学園をめぐる決算文書改ざん問題で自殺をした近畿財務局の職員の妻が国や元財務省理財局長の佐川宣寿氏を相手取り損害賠償を求めている裁判を取り上げていた。誰もが真相を知りたいと思っている事件だと思う。自然災害や新型コロナウイルスについて連日報じられているが、政治の問題についてももしっかり伝えてほしい。ニュースだけでは伝えきれないことも多いので、この様な番組を引き続き作り続けてほしい。
- 7月11日(土)の【特集ドラマ】「56年目の失恋」(BSプレミアム 後9:00～10:29)を見た。現代に働く見習いシェフが、東京オリンピックが開催された1964年にタイムスリップするという物語だった。ラストシーンには驚いたが、どんな反響が寄せられたのか興味を持った。1964年という時代背景をドラマの中にもうまく取り入れており、恋愛の要素だけではなく、私たちが忘れてしまった何か大切なものを思い出させてくれるような内容だった。野菜くずでだしを取ったスープについての一連のエピソードは思わず涙が出てしまうような内容で、心が洗われる思いだった。今後も良質なドラマを作り続けてほしい。

(NHK側)

ラストシーンについては「本当に笑った」といった意見や「付け足し感があり、余計だった」という意見など、さまざまな声が寄せられた。

- 7月11日(土)のE TV特集「ひなたの氷 九二歳、桜守の遺言」を見た。92

歳の桜守である佐野藤右衛門さんの日々をつづった番組で、特に映像がすばらしかった。佐野さんが桜の木と向き合う様子からは、自然に対する謙虚さを感じた。自然と人間の共生について、佐野さんが危惧していることが「遺言」という形で美しい映像とともに表現されており、感動的であるとともに考えさせられる番組だった。

- 6月22日(月)～25日(木)に再放送された100分d e名著「ダーウィン “種の起源”(1)～(4)」(Eテレ2 前11:30～11:54)を見た。ダーウィンの「進化論」について、専門の学者が学術的に解説しており、重要なテーマについて正しい理解ができたと思う。「進化論」について誤った理解に基づいた表現がSNS上で話題になる中、過去の放送から本質的な内容の番組を機敏に編成したのはすばらしい取り組みだと感じた。
- 7月2日(木)、9日(木)の世界10代コロナ会議(1)、(2)(Eテレ 後10:00～10:29)を見た。新型コロナウイルスによって世界の人々が日常生活に影響を受けているという、ある意味で共通の体験をしているなかで、各国の10代の若者たちがどんなことを考えているのかを伝えていた。オンライン授業になったことで勉強に身が入らないといった悩みや、人種差別の問題など、身近な話題から政治的な話まで幅広い内容を若者たちが語り合う構成は興味深かった。将来を担う若者たちがしっかり考えて行動していることが分かる、よい番組だった。
- BS1を中心に放送している「駅ピアノ」や「空港ピアノ」などのピアノシリーズをいつも楽しみに見ている。また、「ヨーロッパ トラムの旅」を見た。ヨーロッパの有名な都市が取り上げられていて興味を引かれるが、もっと丁寧に字幕を付与することでさらにすばらしい番組になると思う。
- 6月27日(土)のザ・ディレクソン「i n 奈良」を見た。視聴者が自らディレクターとなって地域を元気にする企画を考え、NHKがそのアイデアを映像化するという取り組みは興味深く、地域活性化にもつながる番組だと思う。アイデアを出し合う会議がオンラインで行われるなど、密な状態にならぬように配慮しつつも、番組のコンセプトはしっかり守られており、番組そのものがレベルアップしていると感じた。また、山里亮太さんによる司会は安定感があり好感を持った。地域の人たちとNHKをつなぐ意義のある番組であり、今後も継続してほしい。
- 7月12日(日)のBS1スペシャル「レバノンからのSOS～コロナ禍追いつめられるシリア難民～」(BS1 後10:00～10:50、11:00～11:49)を見た。レバノン

に避難しているシリア難民を丁寧に取材し、臓器売買や売春などの実態を伝えていた。衝撃的な内容ではあるが、構成や編集が練られた良質な番組だったと思う。深い取材内容を伝えるだけでなく、歴史的な背景や経済、差別の問題など、物事の本質に迫っており感心した。難民キャンプの取材中に新型コロナウイルスの問題が生じたのだと思うが、そのことで難民がさらに厳しい状況に追い込まれていく様子がよく伝わってきた。素晴らしい番組だった。

- 3月21日(土)の京都 山里の宿「花脊の四季の物語」(BSプレミアム 後 9:00～10:59)を見た。日本の原風景を美しい映像で撮影するとともに、残すべき日本の文化や独特の美意識を丁寧に取材して細やかに描いていた。長時間の番組だったが、素晴らしい内容に引き込まれて食い入るように見てしまった。俳優の近藤正臣さんの語りも心地よく、すばらしかった。7月には「花脊の春の物語」「花脊の夏の物語」など、季節ごとの番組を放送していたが、いずれも改めて日本のよさを感じることができた。平安時代から連綿と続いている宿の独自の美意識がしっかり伝わってくる素晴らしい番組だった。
- 新型コロナウイルスに関連したニュース番組を見ている。NHKのニュースは正確な情報を分かりやすく伝えておりとても頼りにしているので、引き続き期待している。「ニュース シブ5時」は、スタジオ全体が黄色を基調にした明るいデザインになり元気をもたらしているが、時報も黄色であるために、スタジオが背景映像になった場合は時刻がやや見にくいと感じている。

(NHK側)

「ニュース シブ5時」の時報については、頂いた意見を踏まえて、デザインを変更することを含めて検討させていただく。

NHK編成局  
番組審議会事務局